

質問者 渡邊 直樹 議員

通告順1

質問事項 1	ふるさと教育について	質問の 相手	教育長
[質問要旨] 教育長は令和7年度の教育行政方針の教育目標で、「緑の大地津別を愛し、自らを高め、活力と思いやりに満ちた町民に」を目指し教育環境の整備に努めるとし、「ふるさと教育の充実」について総合的な学習の時間などを中心として、津別ならではの地域学習を体系化し、児童・生徒が豊かな自然や産業に触れ、生の体験を得ることにより「ふるさと」への理解を深め、愛着と誇りに思う気持ちを育んで参りたいと述べています。 そこで、津別町の開拓から現代までの「歴史的教育」、地域課題の認識や解決に向けた「地域課題教育」の取り組みを含めて「ふるさと教育」の現状について伺います。 ① 小・中学校における「ふるさと教育」の始まりはいつ頃、どのような経緯で行われたのか。 ② 先人の津別開拓から各地域の広がり、時代背景など「歴史的教育」はどのように行われているのか。 ③ 人口減少や、産業の縮小、若者の担い手不足など、現代における「地域課題教育」はどのように行われているのか。 ④ 副読本「つべつ」の活用は、現在までどのような「移り変わり」で行われてきたのか。 ⑤ 「ふるさと教育」は、どのような成果を期待して行われているのか。また、関連して「家庭教育」で望まれることは。			

質問者 渡邊 直樹 議員

通告順 1

質問事項 2	津別への就業（Uターン）を目指す進学・資格取得への支援について	質問の相手	町 長
[質問要旨] 町長は、令和7年度の町政方針において、「介護福祉人材の確保、労働力不足や担い手確保の取り組み、各産業における人材確保と若者の生活安定支援に取り組んでいきます」と述べています。 一方、就業に際しての支援は「介護保険施設従事者就業支援」、「林業従事者就業支援事業」、「奨学金返還支援事業」等行われています。 本町では小学生から「ふるさと教育」を行っており、まちへの愛着や誇りを育んだ学生の、将来に介護や農業等の各産業の担い手や後継者などとして、本町での就業（Uターン）を目指した進学や資格取得に向けた取り組みに対し、支援を広げることで、学びの連続性や自治体維持に向けた世代の継続性にもつながると考えます。 そこで次の点について伺います。 ① これまでの「就業支援制度」の取り組みは、どのように評価しているのか。 ② 「ふるさと教育」に期待することは。 ③ 「Uターン就職」を目指す学生へ、新たな支援策の検討はできないか。 ④ 対象を絞り「Uターン就職」に向けた、次のような支援の検討はできないか。 ・ 外国人介護福祉人材育成支援を行っているが、町内から介護福祉人材を目指し資格取得で「Uターン就職」を目指す学生への支援 ・ 町内から林産業で「Uターン就職」を希望する学生に、「林業大学校」への進学支援 ・ 農業、商工業などへの就業や、事業継承を目的とした各種専門分野への進学、資格取得に対する支援			

質問者 細川 博行 議員

通告順 2

質問事項 1	津別町堆肥製造施設の運営状況について	質問の 相手	町 長
〔質問要旨〕 堆肥製造施設は平成 1 4 年の施設竣工から現在まで津別町農業協同組合と指定管理契約が継続されてきました。 2 3 年間の累積利益は 3 7, 0 0 0 千円余りですが、直近 5 カ年間の施設運営状況は、累計で約 6 9, 0 0 0 千円のマイナスであり、年 2 回以上開催されている堆肥製造施設運営委員会に報告されております。 費用面のマイナス要因は、原料仕入価格の値上がり、修繕費や電気料金等のランニングコストの負担増、施設・機械等の投資に対する減価償却費の増大、バーク敷料販売運搬や堆肥原料購入時の委託運賃の値上がり、労務費の上昇などにみられる費用負担の増加となります。 また、収入面では、堆肥原料の一部となる植物性残渣量受け入れ減少による産廃処理料金の減収、バーク敷料や堆肥の販売先は農家組合員であることによる販売価格の値上げが困難な状況、合わせて堆肥販売量の減少などがマイナス要因となっており、収支両面の改善がなければ運営状況の改善は見込めない状況です。 そこで、次の点について伺います。 ① 現在の運営状況についての津別町の評価をお聞きします。 ② 年に 2 回ほど事業計画や実績報告を受けていますが、収支改善に向けての更なる協議はできないものか。 ③ 現指定管理契約終了以降、契約更新に向けての協議は双方にとって厳しい状況になるのではないか。			

質問者 山田 英孝 議員

通告順3

質問事項 1	住生活基本計画の改訂内容について	質問の 相手	町 長
[質問要旨] 津別町住生活基本計画は、町の総合的な住宅・住環境づくりのための計画に位置付けられ、住宅施策の目標、推進方針、公営住宅の整備活用の方針を定めています。 とりわけ人口減少や単身高齢者の増、空き家問題、多様なライフスタイルやニーズの変化、コミュニティの希薄化など変化してきている中で、安全安心な住みよいまちづくり、地域特性に応じた住宅政策の推進が求められています。 そこで今年度策定中である住生活基本計画について、次の点を伺います。 ① 住生活基本計画改訂の進捗状況と今後のスケジュールはどのようなになっているか。 ② 町営住宅の今後のあり方はどのように考えているか。 ③ 町営住宅入居にあたって、外国人や子育て世代、新婚世代を裁量階層として拡大することはどうか。 ④ 住環境の向上と定住促進の事業である住宅改修、新築住宅、中古住宅奨励金及び空き家活用、空き家撤去の補助金の見直しの考えはどうか。			

質問者 山田 英孝 議員

通告順 3

質問事項 2	自殺対策について	質問の 相手	町 長 教育長
[質問要旨] 平成 1 8 年に策定された国の自殺対策基本法では、誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指し、生きることの包括的な支援として、保健、医療、福祉、教育、労働、その他の関連施策と連携を図り、総合的な自殺対策を推進することが示されています。 津別町においては、自殺対策基本法を受け、令和元年に津別町健康づくり計画に盛り込み策定しており、第 2 期津別町自殺対策基本計画を令和 7 年度から 5 年間の計画として策定しているところです。 この間、全国の自殺者の総数は 2 万 1 千人前後で減少傾向にある反面、近年はこどもの自殺者数は増加傾向が続いており、令和 6 年の小中高生の自殺者は前年比 1 6 人増の 5 2 9 人で過去最多となり、うち道内は 2 5 人で全国 9 番目の多さと報道されています。 津別町の自殺死亡率は全国と比べて高い中、さまざまな自殺対策に取り組んでいると思いますが、かけがえのない命を守り、自殺者をなくしていく取り組みを強化すべきと考え、以下の点について伺います。 ① 令和 7 年度を始期とする第 2 期津別町自殺対策計画を、単独計画として策定した狙いとは何か。 ② 過去 5 年間の津別町における自殺者数とその特徴をどのように捉えているか。 ③ 自殺対策の取り組み内容と課題は何か。（こどもへの対策も含めて）			

質問者 高橋 剛 議員

通告順4

質問事項 1	児童館について	質問の 相手	教育長
[質問要旨] 児童館は、開設以来津別町の子どもたちに愛され、長年町民に親しまれてきた施設です。 ただ近年は、施設の老朽化が目立つようになってきており、修繕をしながら使い続けています。 そこで次の点について伺いたい。 ① コロナ禍以降の施設の利用人数はどうなっているのか。 ② 今後、児童館を使用する児童生徒の人数はどのようになると考えているのか。 ③ 現在の建物の現状と課題は何か。			

質問者 小林 教行 議員

通告順 5

質問事項 1	奨学金制度について	質問の 相手	町 長 教育長
[質問要旨] 奨学金は子ども達が、経済的な理由で進学を諦めること無く、やる気と能力に応じて教育を受ける機会を支援する大変有意義な制度である。 日本学生支援機構調査では約半数の学生がなんらかの形で奨学金制度を利用しており、その平均借入額は 3 0 0 万円を超えている。奨学金は大きく給付型と貸与型の 2 つに分類され、貸与型は利子の有無等もあるが、将来返さなければならぬ借金である。 この奨学金の返済が未来を担う若者たちに大きな負担となり、解決していかなければならない課題である。 そこで以下の点について伺いたい。 ① 津別町の奨学金制度の内容と実績について伺いたい。 ② 津別町の奨学金返還支援制度について内容と実績について伺いたい。 また、若者の将来負担の軽減を図るためにも、この支援制度を拡充することができないか伺いたい。			

質問者 巴 光政 議員

通告順6

質問事項 1	高齢者、障がい者の熱中症予防のための対策について	質問の相手	町長
[質問要旨] 近年の気象状況は、世界全体および日本において、記録的な高温傾向にあり、猛暑日や熱帯夜の増加といった異常気象現象が頻発する傾向にあります。 この傾向は地球温暖化と関連しているとされ、今後も気象災害の激甚化・頻発化が予測されている状況にあり、管内でも熱中症による死亡や緊急搬送のニュースが伝えられています。 そこで、次の点についてお伺いします。 ① 町内では、熱中症予防のためクーリングシェルの設置が図られているが、利用状況はどうか。 また、災害級の暑さのとき、熱中症の危険性が特に高いとされる独居高齢者などの緊急避難を行うため、自宅へ訪問し、必要に応じて町指定のクーリングシェルへの送迎をすることも、今後において検討すべきと考えるがどうか。 ② 空調家電メーカーの調査では、北海道のエアコン設置率は約60%弱と、全国平均約94.4%を大幅に下回っています。 これは、北海道の比較的涼しい気候に加え、本州以南に比べて夏が短く、夜間の気温が下がりやすいといった背景があると言われていましたが、近年では、異常気象による熱中症患者の増加など健康面での必要性も高まり、設置率が向上しているようです。 一部の自治体では、高齢者世帯や障がい者がいる世帯を対象に、設置費や購入費の一部を助成する制度が実施されていますが、津別町でも「高齢者の命を守る」ことを最優先に捉えた取り組みとして、生活に困窮する高齢者や障がい者を対象に助成を実施出来ないか伺います。			

質問者 佐藤 久哉 議員

通告順 7

質問事項 1	「津別町複合庁舎建設計画等まちなか再生計画」の見直しについて	質問の 相手	町 長
[質問要旨] 「津別町複合庁舎建設等まちなか再生計画」は平成 3 0 年 7 月に策定され、この計画に沿ってこれまで 7 年間事業が推進されてきました。 計画では、主に庁舎建設に関する進め方について示され、その後の計画推進にあたっては個別に検討していくとの説明となっており、コミュニティーゾーンの整備に際して新たに「市街地総合再生基本計画」が策定され、昨年度をもって核となる施設の大通棟と幸町棟が完成したところですが、住民とのコンセンサスを形成する過程において齟齬が生じ、紆余曲折の末であったことは記憶に新しいところです。 そこで、以下の点についてお聞きしたい。 ① 本計画の今後の進め方を見直し、町民に考えや進めていく手法を示すべきではないか。 ② 町長の任期も 1 年余りとなったが、任期中に「にぎわいゾーン」「ようこそゾーン」の構想は具体化するのか。 ③ 特別養護老人ホームの建設位置が確定したことにより「住宅福祉ゾーン」の構想に変更の必要はないのか。			

質問者 佐藤 久哉 議員

通告順7

質問事項 2	バス無料乗車券交付事業とタクシー利用助成券について	質問の相手	町長
[質問要旨] 町で実施している「バス無料乗車券交付事業」と「タクシー利用助成券」について、以下の点について伺います。 ① 現在、バス無料乗車券交付と、タクシー利用助成券の交付手続きが別々の窓口で行われているが、75歳以上の方の受付を一緒にできないか。 ② 75歳以上のバス無料乗車券とタクシー利用助成券の発行枚数を、利用者のニーズに合わせて相互に振り替えることはできないか。			

質問者 篠原 真稚子 議員

通告順8

質問事項 1	子どもの人権を活かしたまちづくりについて	質問の 相手	町 長
[質問要旨] 全ての子どもの権利を保障する「こども基本法」が2024年6月に成立し、子ども政策の司令塔ともいうべき「こども家庭庁」が発足しました。 未来の宝である子どもの最善の利益を第一に考え、子ども政策を社会のど真ん中に捉えた取り組みが推進されています。 そこで大切なのは、子どものための政策を検討する際は、必要に応じ当事者である子どもや若者が意見を表明し政策に反映できる仕組みが必要と考えますが、町長の考え方を伺います。 また、「こども基本法」も「社会参画の機会の確保」や「子どもの意見の尊重」を基本理念としております。子どもの健やかな成長とともに自殺や虐待・いじめ・不登校・貧困など子どもや若者を巡る問題が多様化、深刻化する中で課題解決に向け、当事者目線を大切にすることは重要と考えますが、子どもの話を聞く「場」を作ることについてどう考えるか伺います。			